練馬区 報道連絡メモ　　送付日　２０１４年５月２２日
区長室 広聴広報課 報道係　電話 5984－2693　fax 3993－8572

写真 5点
資料 なし

靴を回収してフィリピンの子どもたちを支援

～シューズバンクプロジェクトに取り組む小学校にフィリピンから訪問団が訪れる～

と　き	５月 22 日（木）　午前１０時～午後２時
ところ	区立南田中小学校（練馬区南田中５－15－37）

区立南田中小学校(柾谷 雅弘 校長：児童数３４１名)では、自分たちが履く機会がなくなった靴を回収し、フィリピンの子どもたちに送って活用してもらうシューズバンクプロジェクトに取り組んでいる。今回は、現在の５年生児童が２月にプロジェクトに取り組み、437 足の靴を集めフィリピンに送った。

22 日、現地でプロジェクトに協力しているカビデ州（マニラの南に位置）のイムス・インディペンデンシアロータリークラブ会員とその家族 28 名が同校を訪れ、児童と交流をはかった。

イムス・インディペンデンシアロータリークラブ会長のロッド スティーブン ヴァスケスさんは、「みなさんの活動で、多くのフィリピンの子どもたちが笑顔で学校に行くことができます。これからも世界に目を向け、日本とフィリピンの友好の懸け橋になってください」とあいさつ。このあと、フィリピンからの一行は、各学級の授業や６年２組の外国語活動の授業を参観し、児童と給食をともにした。

シューズバンクに取り組んだ５年生の児童は、「一番大変だったのは、中学校の前で大きな声を出して靴を集めたこと。フィリピンの子どもの笑顔をもっと増やしたくて頑張りました。自分だけでなく人のことを考えるようになりました」と、うれしそうに話してくれた。

【中学校で回収を呼びかける児童】

【児童との交流の様子】

【シューズバンクプロジェクト】

サイズの合わなくなった靴や履く機会のなくなった靴を、保護者や地域住民に呼びかけて回収し、フィリピンの子どもたちに送って活用してもらうプロジェクト。同校４年生が、総合的な学習の時間の一環として取り組む。フィリピンでは、靴が高価なため、靴を履いて学校にいけない子どもも多い。靴を届ける様子は、現地のロータリークラブの協力でビデオ撮影され、南田中小の児童に届けられる。フィリピンの子どもたちが喜んでくれていることを知り、児童自らが、世界の子ども達のためにできることを考える機会となっている。

この取り組みは、東京練馬中央ロータリークラブとフィリピンカビデ州のイムス・インディペンデンシアロータリークラブの協力のもと、平成１６年から実施し、今回で１０周年を迎えた。

【南田中小学校の取り組み】

２月５日から２８日まで、現在の５年生（当時の４年生）がシューズバンクプロジェクトに取り組み、合計 437 足の靴を回収し、フィリピンの子どもたちに送った。

今回は、近隣の南が丘中学校の生徒や教職員にも協力を依頼し、代表の４年生児童が直接中学校の正門に立って回収を呼びかけた。プロジェクトは中学校のホームページでも紹介され、地域の住民からもたくさんの靴が届けられた。また、南が丘中では、卒業時に３年生が体育館履きを寄付していくが、学校では、その中からきれいな物を選び、次回のプロジェクトのために保管していて、支援の輪が広がっている。

【問い合わせ】 練馬区立南田中小学校長　柾谷 雅弘　電話 ０３－３９９７－１１４５